

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.15 2013.11.6
TEL62-4565

明科総合支所・明科公民館 グラウンドオープン

9月14日、明科総合支所と明科公民館の複合施設の完成を300人の市民が祝うなか、グラウンドオープンイベントが開催されました。

明科総合支所と明科公民館の複合施設



宮沢市長は、「待望の複合施設が完成し、市民のよりどころともなり、また災害時の、緊急避難場所ともなる。」と述べ、また明科地域区長、会長の大石昭明さんも「区民の日常生活に役立てられる館が完成し、いっそう区活動の発展に尽くして行きた



完成を祝って歌う

い」と祝辞を述べました。この日のために、「明科いいまちづくりうかい」では、朝早くから調理をはじめ、赤飯を振舞いました。セレモニーでは、明科中学校と、明科高等学校の吹奏楽部の演奏が行われ、テレビの人気番組「あまちゃん」の主題歌などを軽快に聞かせてくれました。またコーラスやオカリナの演奏、詩吟など日頃のグループ活動の成果も、この日のために披露されました。

万人喜首

短歌

大いなる真の道は今ここに

オリシピック新たな日本

トラクター卒寿の夫が乗り行くを

送り出すのは米寿のわたし

裏庭に落ち葉まろびて敷き積もり

いよよ秋の日深み増し未ぬ

電線の間には張られし蜘蛛の糸

秋の夕陽に光り織りなす

城山の日陰の畑に育つ葱

長き葉先の揃いて陽に向く

柏原 竹内 香代子

住吉 児嶋 たかの

明科 寺嶋 範

明科 平出 信子

明科 加々美 典子

手作り野菜の魅力 掘金で農業体験講座

堀金公民館は、6月から11月にかけて農業体験講座を下堀地区、田甫集会所の専用地で開催している。受講生6人が農業経営者の浅川利夫さんを講師に野菜作りを始めた。

「長ネギ」「黒豆」「白菜」を育成中で、「長ネギ」は「松本一本ネギ」を植え、苦土石灰を使った土作りから元肥の準備を習い「畝たて」「植え溝作り」をして苗を植えた。

ひと月ほどで成長したネギを「植え替え」「穂先の切り取り」「据え置き」の実験も実施している。

成長したネギの大きさや味、硬さ柔らかさなどを食べ比べてみる予定をしている。

「白菜」はマルチを敷いて苗を植え、「黒豆」は「信濃黒」と「丹波の黒豆」を育成して、緑の実が膨らんだ9月には、一部取り入れをしてゆで豆を味わった。

途中で真夏の猛暑の中、旺盛な雑草の駆除をしながら、晩秋から初冬の収穫を楽しみに農作業の実習を続けている。

(山楽子)



ネギの土寄せ

—俳句・短歌の作品をお寄せください—

〒399-7102 安曇野市明科中川手2914番地1
教育委員会社会教育課内館報編集事務局 宛
TEL.62-4565 FAX.62-3525
E-mail:shakaikyoiiku@city.azumino.nagano.jp

次号は文化祭特集号のため、コーナーをお休みします。
次の掲載は2月19日発行の第17号、1月16日締め切りです。

私は一生懸命
 (穂高古文書勉強会・運営委員12人)は市教育委員会の委嘱を請けて、毎週金曜日の午後、市内の所蔵家の古文書を整理し目録作成のための地道な作業をしています。この調査活動は、平成4年頃の「等々力区・望月家文書」が最初で、以来井口家、東大祝家、牛龍

和紙に墨で書かれた古い書物(古文書)は、昔庄屋や村役人をしていた旧家の土蔵や戸棚の奥深くに大事に所蔵されてきました。当時の地域の歴史、庶民の生活等を解明する上で大変貴重な史料ですが、現在散逸の危機にあります。私たちが「古文書調査委員会」



古文書の解説に取り組む井口誠司さん(古文書調査委員会 会長)

家、藤森家等々、十家に余る目録が出来、現在「潮神明宮文書」の整理に取り掛かっています。難解な崩し字の解説に苦労しながら、古文書の価値や史料の保存と利用の大切さを訴えていきたいと思えます。

古きを尋ねて

⑪ 豊科銀座

豊科成相商店街は、昭和30年代当時、南安曇郡内では最大の繁華街を形成し、『豊科銀座』と呼ばれていた。隣接する新田中町、成相上町に集中した商店は、『郡都』豊科の繁栄をも表していた。当時の様子を豊科出身の詩人、藤森秀夫は詩「お国訛」(詩集『風と鳥』所収、昭和33年刊)で次のように生き生きと描写している。

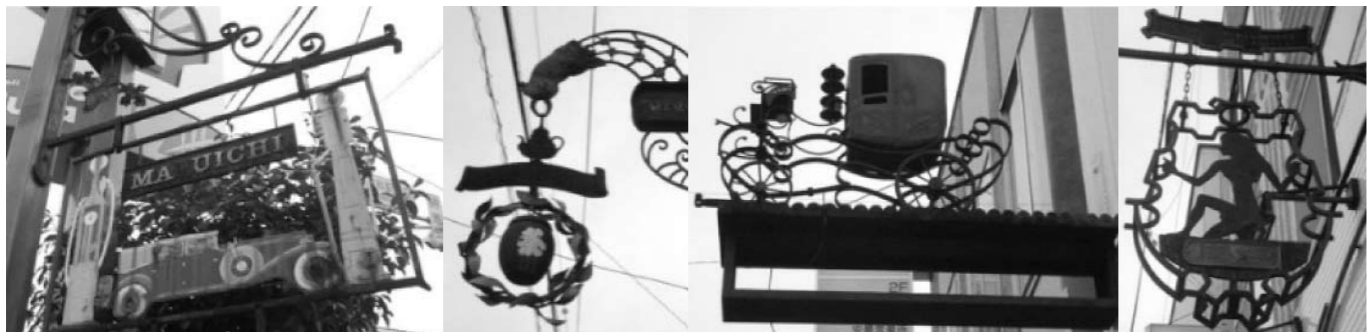
農学校生徒が改装の銀行前に今年も並立ってたそれは農作物、桃、

お花。電蓄ででかい宣伝、うろたえ橋へんに若い衆の手踊、又女男。糸魚川街道は人で埋まり、バス、ハイヤーの通行も危ない。巡査はあせだく。万一(註：食堂名)は満員、履物屋の二階は新宿式喫茶部新様の七夕竹が商店軒なみペラヘナペラヘナ(註：近郊の村々)からもたんとよつてたかつてきた。(中略)昔のいろまじや今夜は三味の音もする。

当時の『豊科銀座』には、商店が密集して売出しには町内や周辺農村部から、歩行者天国並

みの集客があった。各種商店、飲食店だけでなく、飲み屋街や花街、娯楽施設も栄えていた。その要因として考えられるのは次の4つ。
 ① 町村合併により人の流入が増えた(昭和の大合併)
 ② バス路線が豊科銀座と周辺農村部を結んでいた(自家用車は普及していない)
 ③ 地方事務所など出先機関が多く、来町者が多かった
 ④ 積極的に工場誘致に取り組み、人口が増えた
 昭和50年代を迎え、松本近郊の大型店出店ラッシュにより、マイカー世帯のワンストップショッピングが重宝がられ、商店は影響を受けていった。平成に入ると、地元豊科の買い物客の半数以上が町外へ流出していた。この頃、第一種大型店豊科ショッピングセンター(現在のイオン)構想が持ち上がり、高級志向が特色のワンストップショッピングが出来る店舗が開店した。次々と大型店や大型ショッピングタウンが出来て、豊科の商業売上は回復したが商店街には客足が遠く原因となっていました。

時期を同じく豊科近代美術館の開館に協賛して、各商店の素敵なヨーロッパ調の看板が取り付けられた。それぞれこだわったデザイン、見て歩く楽しいことこの上ない。豊科駅前から新田交差点の間、看板巡りをしてみてはいかが。(参考：豊科町史)



みさと

料理教室で腕磨き

三郷公民館は、9月20・27日の両日、同館で調理師の高橋清美さんを講師に料理教室を開き14人が出席した。

第1回は、総材料費3000円のリーズナブルな予算で「夏野菜のブイヤベース」「レタスタっぷりヘルシーチャーハン」「ゆで豚の菜味かけ」の3品に挑戦した。彩り鮮やかに盛り付けたブイヤベースは、今どき旬な話題の「おもてなし料理」にもできる豪華な一品となった。



彩り鮮やか、3品に挑戦



絵：加々美豊
草花：チカラシバ

第30回 ハーモニックコンサート

10月5日の夜、豊科公民館ホールで行われた、徳永二男さん(ヴァイオリン)と林絵里さん(ピアノ)の素晴らしい共演。プログラム15曲の演奏後、鳴り止まない拍手に迎えられて3曲のアンコール。最後はモニテイのチャルダッシュ、満員の観客は芸術の秋を満喫した。



芸術の秋を満喫

ほりがね

体験活動が子どもの心を育てる



真剣に聴く参加者

堀金公民館やPTAなどの家庭教育講演会実行委員会は、このほど平野吉直信州大学教授を招いて、同講演会を開き200人余りが出席した。「体験活動が子どもの心を育てる」と題し、「人との交流や自然との触れ合いが子どもの生きる力を向上させる」と話した。



展示されている絵手紙

あかしな

公民館のロビーにて

明科公民館のロビーの一角にある掲示板に、明科短歌会と絵手紙クラブの活動と作品が展示紹介されている。

足を止めて絵手紙に見入っている市民も、「日常生活の姿が、絵を通して人柄をも一緒に感じさせてくれる」と感想を述べていた。

ほたか

文化講座「穂高の歴史、文化と水郷を巡る」

9月7日、文化講座「穂高の歴史、文化と水郷を巡る」が穂高公民館主催で開催され、20人が参加した。佐伯治海さんを講師役に、午前9時すぎに同公民館を出発し、保高宿・等々力家・東光寺・早春賦歌碑・穂高公園を徒歩で巡った。保高宿で漆喰の見世蔵や街道沿いを見学し、長屋門(安曇野市有形文化財)を持つ江戸期「御本陣」等々力家での詳しい解説を堪能し、早春賦歌碑前ではオルゴールに合わせて皆で合唱した。



保高宿「漆喰の見世蔵」前にて

地区公民館だより

三郷地域 七日市場地区公民館

地区公民館の状況

七日市場地区は、戸数444戸(4月1日現在) 人口1716人(9月30日現在)で、三郷地域14地区の中で3番目に多い地区です。毎年定例の公民館活動を行っています。人口増加と共に地区住民の公民館活動に対する関心と交流は希薄になりつつあります。

地区公民館では、住民への情報提供を目的に年3回公民館報「ふれあいなのかいち」を発行しています。しかし、発行回数が少なく、紙面も限定されるため情報のタイムラグが大きく、情報量や質には限界があります。そこで「地区住民のニーズに応えるための公民館報のあり方」を検討するため、昨年10月に全戸を対象にアンケート調査を実施しました。その結果、高齢者層には現行の公民館報に対する期待が大きく、若年層ではあまり読まれていないこと、また、回答者の63%が何らかのインターネット接続環境を有していることも分かりました。

ホームページの開設

これらの調査結果を参考にし、高齢者層から期待されている

従来の公民館報は継続しながら、地区住民に対する情報提供と同時に、住民間の交流の場として「公民館ホームページ」を本年6月1日に開設しました。ホームページはフリーソフトを使って公民館役員有志が立上げ、有料サーバー(年間3600円)を利用し、運営は公民館報編集委員が担当しています。ホームページコンテンツは、動画を含む画像などの地区公民館行事の情報や、カラー版の公民館報をアップロードしています。コメント欄を通じて情報の双方向性も持たせました。

開設から今日までに約1500回のコンテンツ閲覧があり、特に行事後の数日間は多くのアクセスがあります。今後、さらにコンテンツ内容を充実させ、他のホームページ運営組織と協力して、地区の公民館活動のみならず安曇野市民の情報交流の場として、活用できるように発展させていきたいと考えています。

(七日市場地区公民館主事 松尾 学)



<http://nanokaichiba.wakwak.info/wordpress/>

グループ紹介

あやめクラブ

「85歳元氣はつらつ」

旧明科町公民館のスポーツ教室として1986(昭和61)年に発足して27年になる。安曇野市になつてからは「あやめクラブ」と名前も改めた。指導している須山美子(75)さんは、明科体協スポーツ指導員で今も指導を続けている。40人で始まり現在は17人が在籍している。和気あいあいのなかに、はつらつさが満ち溢れているクラブだ。

毎週木曜日の午前9時半から11時まで、休憩をとりながら、無理をせず、ゆつくりと体を動かしていく。気が、体をゆつくり動かし、いく太極拳と共通している。

須山さんは「加齢で衰えていく筋肉を維持するために、腰痛や肩こりの予防のために、この体操は効果がある」と話す。最高齢の関くに子さんは85歳になるが、「体

櫻

▼10月6日の選挙で市長・市議会議員が決まった。共通している公約は「安曇野市の発展であり、どのような政策で具体化していくのか、これからの事になるのだが、個性的な発想を持つ、まちづくり」実現に期待して行きたいと思っている。▼30年以上前には10月の声を聞くと、こたつが



ほしくなる季節の変わり目を強く意識したものだ。最近秋の味覚が店頭に並んでいるのに、半袖の日常生活だ。人類の文明は高度に発展してきているが、自然の力を無視してはいないだろうか。気象の最近の荒れ方から学ぶことは大きい。

操をはじめ15年間、医者とは無縁になった」と話す。坂井たけ子さん(76)もその一人。知人のすすめで入ってから10年以上になるが無欠勤を続けている。「運動したあとは爽快そのもので気分がいいです」と話す。60歳から85歳までの会員の動きに若さがある。

会費は安曇野市になつてから年会費3000円。公民館を主会場にしているので、通いやすさがある。いつでも気楽に声をかけて、会員募集をしている。男性会員大歓迎! 問合せ明科公民館 ☎62・4605